

1

ユニヴァーシティ・コレッジ病院の創設と発展

柳澤 波香

津田塾大学

ユニヴァーシティ・コレッジ病院 (University College Hospital) は、1834年、ロンドンのブルームズベリー地区に、ロンドン大学 (1828年開学) の教育病院として設立された、ロンドン初の大学附属病院である。

19世紀に至るまで、イングランドにはオクスフォード大学 (1167年創設) およびケンブリッジ大学 (1209年創設) の二大学しか存在せず、両大学では学生も教員も英国国教会への恭順を誓約する必要があった。このため、非国教徒の知識人らは宗教的束縛のない大学として、ロンドン大学の設立を決議した。中産階級の非国教徒の子弟を対象とし、時代のニーズに応ずる科学、実学教育を重視し、大学創設当初から医学部が設置された。ロンドン大学設立推進者にはスコットランドのエジンバラ大学卒業生が多く、また非国教徒のほかユダヤ系のロンドン居住者も大学設立に参画した。

医学部開設時の教授陣は、外科医ベル (Charles Bell)、内科医トムソン (Anthony Thomson)、コノリー (John Conolly) らエジンバラ大学出身者が多くを占めた。産科学教授のデイヴィス (Davies) もスコットランドのグラスゴー大学出身者であった。医学学修に必須の病院実習に関して、大学設立者らは当初、近隣のミドルセクス病院 (1745年創設) での実習を想定し、当初は外来を中心とする診療所のみを設立した。診療所体制では医学実習には不十分であり、大学附属病院の設立が急務となった。建設費用は医学部学生が支払う学費と寄付金により賄われた。病院は1834年、ノース・ロンドン病院という名称で開院した。開院時のベッド数は130床であった。

病院開設時の医師は、内科医トムソン、エリオットソン (John Elliotson)、カースウェル (Robert Carswell)、外科医はクーパー (Samuel Cooper)、クウェイン (Richard Quain)、リストン (Robert Liston) らであった。リストンは術技に優れ、エジンバラで活躍していたが、医学部開設時に赴任した名外科医ベルがノース・ロンドン病院開設以前に辞めていたため、大学評議会がリストンを切望し、その招聘に応じた。

1837年、ロンドン大学が学位授与機関として認可され、ユニヴァーシティ・コレッジとして発足すると、ノース・ロンドン病院もユニヴァーシティ・コレッジ病院と改称された。病院の19世紀における最大の業績は外科医リストンが1846年12月に英国初のエーテル麻酔下での下腿切断手術に成功したことである。リストンの患者に麻酔を施したのは未だ医学生であったスクワイア (William Squire) であったが、石炭酸消毒法を考案、実施したリスター (Joseph Lister) も医学生としてこれを見学したと伝えられている。また、コレラ感染症研究でも知られるスノウ (John Snow) は麻酔投与に長け、リストンに認められた。やがて卒業生のなかからユニヴァーシティ・コレッジ病院の医師として医学の発展、患者の治療に貢献する医師が現れた。内科医ジェンナー (William Jenner) や彼の弟子フォックス (William Fox) は病院内に他の病院に先駆けて設置された新興の皮膚科部門を率いた。19世紀後半から発展を遂げた英国神経学の発展に寄与したガワーズ (William Gowers)、ゴドリー (Rickman Godlee)、ホーズリー (Victor Horsley) らもここの病院医師を務めた。

ユニヴァーシティ・コレッジ病院は現在、University College London Hospitals NHS Foundation Trust の中心的存在として、高度先進医療および医学教育および研究の拠点であり、英国最大の医療機関のひとつとして名高い存在である。